

令和5年8月1日
株式会社かんぽ生命保険

「VR認知症体験会」のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび弊社では、超高齢社会を迎える日本において社会問題となっている『認知症』について、VRゴーグルを活用した体験を通じて、『認知症』に対する理解を深めていただくことを目的として、一般社団法人めじろ台まちづくり協会を通じて、「VR認知症体験会」を開催する運びとなりました。

つきましては、ご多忙中とは存じますが、ご興味のある方はぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日時 2023年8月31日（木）13:00～14:30
2. 会場 めじろ台第一会館1Fホール
3. プログラム
・VR認知症体験会 <提供：株式会社シルバーウッド>
4. 定員 45名（事前申込制）
5. 申込方法（下記まで電話又はメールでお申し込みください。）
担当：一般社団法人 めじろ台まちづくり協会 代表理事 中村 修
電話：090-9245-1406
Mail：matidukurimjr@gmail.com

以上

めじろ台協議会は地域住民の有志を中心に地域の未来を考える集まりです

めじろ台協議会から誕生したコミュニティスペース

めじろ台テラス



店内には本棚オーナー制を採用した本棚商店街と
フリースペースがあります

本棚商店街

店内の本棚には棚ごとにオーナーがいます
棚の使い方はオーナー次第
30cm×30cmの小さなお店、覗いてみませんか？

本棚オーナー
募集中!!
1棚(6か月)
6,000円~
12,000円

取り扱い商品例



新刊、古本、自著本、同人誌、パンフレットなど書籍類
アクセサリ、雑貨、手芸品、工芸品、絵、写真、リサイクル品など



他にもパンフレットやチラシを置いて団体の広報活動をする棚や、
作品の展示、店内で読んだり遊んだりできる貸出(持出不可)用の棚もあるよ

店内には
ボランティア
スタッフ
1名在中

フリースペース

机と椅子はどなたでも自由にお使いいただけます

- ・待ち合わせに
- ・買い物の休憩に
- ・お友達との茶話会に
- ・読書、自主学习など
- ・各種相談会、セミナー、懇親会、
イベントの開催やサークル活動など

※団体利用、貸切りには事前申込が必要です(有料)
※利用規約はめじろ台会館利用規約に準じます。
そのため、お断りさせていただくこともございます。

■■■■お願い■■■■

飲食物の販売は基本ありません。近隣の店舗をご利用いただくなど、ご自身でご用意ください。
ゴミは購入されました店舗へお持ちいただくか、ご自宅までお持ち帰りください。

この本棚の
棚1つ1つが
オーナーの違う
お店!



店内の様子

この
椅子や机が
自由に使えるよ

めじろ台テラスと一緒に盛り上げられるスタッフも募集中!!

営業時間：11時～17時

定休日：日曜日(イベントなどは開催)

※イベント開催などで変更になる場合があります

最新情報は店頭カレンダーをご確認ください



めじろ台ショッピングセンター内cafe5の隣

【お問合せ】

一般社団法人 めじろ台まちづくり協会

Mail : matidukurimjr@gmail.com

TEL : 代表理事 中村 修 090-9245-1406/理事 総村 典男 090-9364-6426



認知症になると想いを表に出しづらくなり、代わりに起こす行動が“周囲には理解できないもの”と映ってしまうことが多くあります。

表面的な行動は「徘徊」「帰宅願望」「入浴拒否」「暴力・暴言」などの様々な言葉で表され、“認知症だから起こすもの”と思われがちです。しかし、認知症がある方を取り巻く「問題」とされるものは、ご本人の問題ではなく、ご本人を取り巻く周囲の理解やコミュニケーションが大きく影響していることが多いということをご本人の視点を体験することで理解につなげることを目的としたプログラムです。(体験人数85,000人 2021年12月現在)

「認知症を学ぶ」のではなく「認知症を体験する」ことで認知症のある方への理解を深めることを目指しています。

VR認知症体験会は、参加人数分のVR機材と講師を派遣して実施する約90分の研修プログラムです。

90分で3つの症状を体験し、体験ごとに参加者同士で「本人の視点に立ったときに何を感じ何を思ったか」「どうしてほしいか」を話し合い、認知症がある方を取り巻く環境をどの様に変えることが状況改善につながるのか意見を出し合い、さらに制作協力いただいている認知症当事者の方のインタビューを聞きながら認知症がある方を取り巻く問題の本質に迫る内容です。



グループディスカッション



当事者インタビュー

VR認知症は「銀木犀」から生まれました



VR認知症体験プログラムは、当社が運営するサービス付き高齢者向け住宅「銀木犀」から生まれました。銀木犀は入居者の約9割の方が、軽度認知障害（MCI）を含めた認知症のある方たちです。入居者の方たちと関わる中で、社会の認知症に対する偏見を感じてきました。

自分が認知症を経験したことがないから、認知症のある方に共感をしにくく、「もう何も分からなくなってしまった人」「何だか怖い」といった感情につながるのでは。そんな思いから、認知症がある方たちの世界を一人称体験する「VR認知症」が生まれました。

体験者の声

認知症については、全て理解しているつもりでいたが、上から目線だったのかもしれない。“症状”を見て“ご本人”を見ていなかったのかもしれない。

● 認知症専門医

認知症の方の気持ちを理解し寄り添いたいとずっと思って来たがなかなかできなくて苦しんでいた。体験を通じてこれから自分がどうしていけばいいのかわりとわかった気がして涙が出た。

● 介護職員

認知症に対して「大きな負」のイメージしかなかったが、体験を通じて負のイメージがなくなった。

● 大学生

10年前にこの体験ができていたら自分の母親に対する介護が変わっていたかもしれない。今介護をしている家族に見てほしい。

● 介護家族

今まで受けてきた講義とは全く違う理解の仕方で驚いた。VR体験の力に大変驚かされた。

● 認知症認定看護師

現在父親の介護中だが早速、接し方を変えていきたいと思った。

● 介護家族